

# 年頭のご挨拶

社団法人 日本金属学会 会長 落合 庄治郎

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災により、本会でも春期講演大会は中止\*、会報・会誌・欧文誌の刊行も一時延期せざるを得ない状況となりましたが、事務局、小宮山印刷工業㈱をはじめ皆様のご懸念のご尽力により、7月には通常業務ができるまでに復旧いたしました。この間、国内外よりいただきました皆様の温かいご支援、ご激励に厚くお礼申し上げます。



昨年は、本会名誉員の Dan Shechtman 教授(テクニオン-イスラエル工科大学)が「準結晶の発見」でノーベル化学賞を、John Werner Cahn 教授(マサチューセッツ工科大学・材料科学科で教授を務められ、現在は米国国立標準技術研究所・名誉上級研究員、ワシントン大学・客員教授)が「スピノーダル分解理論の構築によるアロイ材料工学への多大な貢献」で京都賞を受賞されました。本会名誉員である両先生のご受賞は誠にうれしいニュースでした。Dan Shechtman 教授には本年3月の春期講演大会でノーベル賞受賞特別講演を依頼しておりますので、よろしくご聴講ください。

昨年は科学技術の重要性と社会に果たす役割が再認識された年でもありました。3月11日の東日本大震災およびその後の原子力発電所事故は、本会にとっても材料の研究開発のあり方を見直す大きなきっかけになっています。東日本大震災および原子力発電所事故を受けて8月に閣議決定された第4期科学技術基本計画では、「震災から復興・再生を遂げ、将来にわたる持続的な成長と社会の実現する国」、「安全かつ豊かで質の高い国民生活を実現する国」など、五つの国の目指すべき姿が挙げられています。安全・安心社会の実現、人類が直面するエネルギー、資源、環境問題等の克服には、それらを可能にする科学技術全般の向上・新たな進展は欠かせません。材料工学分野には、工学全般の基盤として、独創的で多様な基礎研究とともに、さまざまな機能・特性を高度に有する材料の開発が求められています。本会の果たすべき役割はますます大きくなってきております。皆様のご支援を得て、材料科学・材料技術の進歩発展の牽引役として、本会の役割を果たしていきたいと存じます。

以下、昨年の活動を報告し、今年の方針を述べさせていただきます。

**国の政策立案への対応、提言：**本会では、戦略推進委員会および分科会委員会での活動を基盤に、材料系各学協会および産官で組織された材料戦略委員会において、内閣府総合科学技術会議、文部科学省、経済産業省、日本学術会議等と連絡を取りつつ、政策立案における材料系分野の重要性を主張し、提言してきました。日本学術会議第三部と学協会の合作として、理学・工学分野における科学・夢ロードマップが作成され、そのなかで材料に関する事項が多数記されています。関連して、戦略推進委員会が中心となって、新元素戦略プロジェクトの推進およびシンポジウム開催を進めています。また、平成25年度(2013年)からの科研費-系・分野・分科・細目表の大改正案では、材料分野が希望してきた全細目の継続に加え、総合理工分野のナノ・マイクロ科学分科において「ナノ材料工学」の細目が新設され、他分野との連携、融合を促進する効果も期待される内容になっています。戦略推進委員会および科研費委員会関係者のご尽力に厚くお礼申し上げます。今後とも、材料系分野の更なる発展を期して、国の政策立案に提言していきます。

**公益社団法人への移行準備および移行申請：**本会が将来にわたってその使命を果たしていくには公的学会としての社会的認知と活動を続けるための財政が必要です。公益法人化は社会に対する本会のプレゼンスの向上ならびに法人および個人の税制優遇の面から本会にとっては必須です。そのため、公益法人化に向けて、法律に基づく理事会の設置、代議員制度の新設、新公益法人会計基準への対応など検討し、定款の変更の案を正員のご意見をいただき理事会で決議し、さらに社員総会で公益法人への移行をめざすことを決議いただきました。支部のご協力により、各支部の規程も整いました。本会のすべての事業の公益目的事業化の推進や各種規程の見直しおよび制定、セルフガバナンスに基づく運営の推進および会計における公益目的事業の収支相償および遊休財産制限への対策なども順次計画的に推進するとともに、内閣府公益認定等委員会の相談にも行き、移行認定申請の準備を鋭意進めているところです。その一環として、昨年末には、現行の評議員選挙に加えて、移行認定後の最初の代議員の選挙を実施いたしました。今年の8月頃をめどに申請する予定です。

**講演会・講習会事業：**講演大会関連では、春期大会は東日本大震災の影響により中止せざるをえませんでした。11月に沖縄で開催した秋期大会は、会員各位のご協力により、歴代2位の講演数1497件と盛況でした。参加者各位、実行委員はじめ関係者の皆様にお礼申し上げます。この秋期大会では、第4期科学技術基本計画を念頭においたセッションの大括り化やシンポジウムのあり方を検討し、コンベンション施設を利用した大会運営、概要のDVD化、懇親会での授賞式開催および各種運営の効率化などを試行しました。講演大会の更なる活性化に向け、検討を続けてまいります。ご意見、ご感想、アイデアなどを是非お寄せくださいますようお願いいたします。また昨年は金属学会セミナーを2件、分科会シンポジウムは1件実施しました。今年も金属学会セミナーおよび分科会シンポジウム各2件の実施を予定しています。

**国内外の学協会との連携および国際会議主催：**国内では、日本鉄鋼協会と連携して両会の共通課題に取り組み、材料系学協会とは材料連合協議会、材料戦略委員会、欧文誌共同刊行編集委員会等の活動を通じて連携してきました。今後とも連携を強化し、材料分野の課題に取り組みます。米国のThe Minerals, Metals & Materials Society (TMS)とは、若手人材育成の一環として若手リーダー研究者相互派遣プログラムを実施中です。このプログラムを継続・強化していきます。材料分野の国際的連携組織であるIOMMMS(The International Organization of Materials, Metals and Minerals Societies)とのWorld Materials Day AwardやGlobal Materials Forumなどの連携事業、大韓金属・材料学会(KIM)との人的交流およびジョイントシンポジウムを継続・強化し、中国金属学会(CSM)との交流をさらに進めていきます。昨年沖縄講演大会前日に開催したKIM-JIMジョイントシンポジウムは12回目となりました。また本会が昨年9月に千里阪急ホテルで開催したJIMIC8(ICOMAT2011)は、発表件数271件と盛況で、活発な議論が行われ、成功裏に終了しました。実施予定であった本会主催のJIMIS11/Creep2011は、震災の影響で、日程は2012年5月27日-31日に延期し、会場は予定通り京都テルサとして開催いたします。ふるってのご参加をお待ちしております。

上記の活動を通じて、本会の社会的使命を果たすべく、また将来のための布石を打つべく、全力を尽くします。引き続きどうぞお力添えのほど、お願い申し上げます。

会員各位の益々のご健勝とご活躍、企業各社の益々のご発展を祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

\*講演大会は中止しましたが、概要集の発行をもって講演大会を開催したとみなします。

2012年1月